

テーマ展「近代の書聖・日下部鳴鶴－新出資料を中心に－」展示作品リスト

	名称	作者	数量	品質形状	法量(cm)	制作年代	年齢(数え)	所蔵者および寄贈者
1	日下部鳴鶴写真		1枚	印画紙 プリント	縦28.1 横40.6	大正時代		彦根城博物館 日下部陽氏寄贈
2	七言詩書幅「湖光滄蕩…」	日下部鳴鶴 (1838～1922)	1幅	紙本墨書	縦139.0 横48.9	明治時代		個人
3	五字書額「何必照与竹」	日下部鳴鶴	1面	紙本墨書	縦29.9 横132.3	明治9年 1876年	鳴鶴39歳	彦根城博物館 〈岡島家伝来資料〉 岡見正良氏寄贈
4	三字書額「養徳庵」	日下部鳴鶴	1面	紙本墨書	縦29.7 横110.9	明治時代		彦根城博物館 石田承玉氏寄贈
5	孫過庭「書譜」衝立	日下部鳴鶴	1基	紙本金地墨書	縦117.2 横92.2	明治13年 1880年	鳴鶴43歳	個人
6	五言詩書屏風「松頂…」	日下部鳴鶴	6曲 1双	紙本墨画	各縦138.1 横52.9	明治～ 大正時代		彦根城博物館 〈井戸庄平家伝来資料〉
7	七言詩書幅「不着胸中…」	日下部鳴鶴	3幅	紙本墨書	各縦133.0 横56.5	明治23年 1890年	鳴鶴53歳	彦根城博物館
8	文天祥「正気歌」(五言詩書)屏風	日下部鳴鶴	6曲 1双	紙本墨書	各縦137.0 横54.2	明治39年 1906年	鳴鶴69歳	彦根城博物館 奥村松平氏寄贈
9	筆談書	日下部鳴鶴ほか	14巻 のうち	紙本墨書	縦 19.0 ほか	明治24年 1891年	鳴鶴54歳	彦根城博物館 日下部陽氏寄贈
10	五字書幅 「勁節■*松老」	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨書	縦116.5 横22.9	明治時代		彦根城博物館 遠城和雄氏寄贈
11	七言詩書幅「青山一角…」	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨書	縦178.3 横95.7	大正6年 1917年	鳴鶴80歳	彦根城博物館 日下部陽氏寄贈
12	禹域遊草(七言詩書)幅「燈光酒影…」	日下部鳴鶴	1幅	絹本墨書	縦143.1 横53.0	明治27年 1894年	鳴鶴57歳	個人
13	五字書対幅 「室雅何須大」 「花香不在多」	日下部鳴鶴	2幅	絹本墨書	各縦130.3 横19.3	明治29年 1896年	鳴鶴59歳	彦根城博物館 石田承玉氏寄贈
14	神勅屏風	巖谷一六 (1834～1905) 日下部鳴鶴	2曲 1隻	紙本墨書	各縦134.7 横52.5	明治時代		彦根城博物館 近藤勲夫氏寄贈
15	七言詩書幅「捷報号中…」	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨書	縦131.3 横53.3	明治38年 1905年	鳴鶴68歳	彦根城博物館 日下部陽氏寄贈
16	梅画賛幅	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨画	縦135.3 横31.2	大正10年 1921年	鳴鶴84歳	彦根城博物館 佐藤讓氏寄贈
17	瀧画賛幅	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨画	縦136.2 横37.5	明治～ 大正時代		彦根城博物館 〈井戸庄平家伝来資料〉

テーマ展「近代の書聖・日下部鳴鶴－新出資料を中心に－」展示作品リスト

	名称	作者	数量	品質形状	法量(cm)	制作年代	年齢(数え)	所蔵者および寄贈者
18	三字書額「福如海」	日下部鳴鶴	1面	紙本墨書	縦25.3 横89.0	明治～ 大正時代		彦根城博物館 山村孝夫氏寄贈
19	四字書額「南山之寿」	日下部鳴鶴	1面	紙本墨書	縦33.5 横128.5	明治～ 大正時代		個人
20	七言詩書額「水竹…」	日下部鳴鶴	1面	紙本墨書	縦40.5 横108.7	大正8年 1919年	鳴鶴82歳	個人
21	孫過庭「書譜」屏風	日下部鳴鶴	6曲 1双	紙本墨書	各縦89.7 横34.0	明治36年 1903年	鳴鶴66歳	彦根城博物館 近藤勲夫氏寄贈
22	七字書対幅 「退筆如山未足珍」 「読書万卷始通神」	日下部鳴鶴	2幅	紙本墨書	各縦150.8 横32.7	大正5年 1916年	鳴鶴79歳	彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
23	五言詩書幅「開窓瑞色…」	日下部鳴鶴	1幅	紙本墨書	縦65.2 横32.0	大正7年 1918年	鳴鶴81歳	彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
24	四字書扇面「啓為知能」	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長26.4	明治43年 1910年	鳴鶴73歳	彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
25	五言詩書扇面「朝迎岫雲出…」	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長27.3	大正9年 1920年	鳴鶴83歳	彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
26	梅図扇面	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長19.5	大正10年 1921年	鳴鶴84歳	彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
27	竹図扇面	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長21.2	大正時代		彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
28	蘭図扇面	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長18.2	大正時代		彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
29	菊図扇面	日下部鳴鶴	1握	紙本墨書	長19.6	大正時代		彦根城博物館 日下部暘氏寄贈
30	『鳴鶴先生書谷川氏碑』	日下部鳴鶴	1冊	紙本 版	縦30.8 横19.1	明治26年 1893年 出版: 大正8年 1919年	鳴鶴56歳	彦根城博物館 佐藤讓氏寄贈
31	『日下部鳴鶴先生四体書』	日下部鳴鶴	1冊	紙本 版	縦30.9 横18.8	出版: 大正10年 1921年		彦根城博物館 佐藤讓氏寄贈
32	『鳴鶴先生草書蘭亭序』	日下部鳴鶴	1冊	紙本 版	縦33.2 横16.4	出版: 大正14年 1925年		彦根城博物館 佐藤讓氏寄贈

*10 ■の文字はさんずい偏に聞

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

1 日下部鳴鶴写真 1枚

縦28.1cm 横40.6cm

大正時代

当館蔵 (日下部 陽氏寄贈)

晩年の鳴鶴像。楊守敬から学んだ廻腕執筆法で揮毫しています。この書法は、親指の先と他の四指の先で真っ直ぐに筆を持ち、親指と人差し指の上を平らにし、肘腕を半円形にして筆を持ち、腕に力を込めてその力を指頭に集中させ、腋を開いて筆と指とが胸の前面に来るようにするものです。鳴鶴は、この法で書くと、身体のたるみもなく、心に油断がなくなり、力のある字になると説いています。



11 七言詩書幅「青山一角…」 日下部鳴鶴筆 1幅

紙本墨書

縦178.3cm 横95.7cm

大正6年(1917年) 80歳

当館蔵 (日下部 陽氏寄贈)

大正6年(1917年)5月13日、東京日本橋倶楽部において、鳴鶴の80歳の寿宴が、200人以上の知人や門人が参集して大々的に開かれました。本作品は、その時に会場正面の床の間に掛けられた、鳴鶴自詠自筆の書。年齢を感じさせない堂々とした隷書で書かれ、鳴鶴晩年の代表作とされます。

青山一角避紅塵 不汎家湖把釣綸
 頤性半仙期大耋 開筵立夏卜佳辰
 榴華多子如為寿 竹祖添孫自作鄰
 娛日薰風清景好 称觴欣笑共同人

青山…樹木の青く茂っている山

紅塵…①日に映じて赤色になった塵気②厭わしい俗界

釣綸…釣り糸

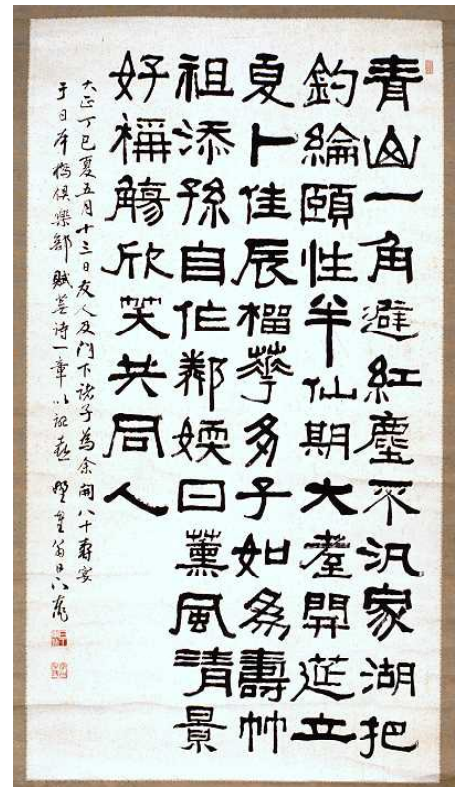
半仙…半ば仙人になる

大耋…老人

佳辰…めでたい日、よい日

娛日=嫩日…あさひ、旭日

称觴…さかずきを上げる



12 禹域遊草(七言詩書)幅「燈光酒影…」 日下部鳴鶴筆 1幅

絹本墨書

縦143.1cm 横53.0cm

明治27年(1894年) 57歳

個人蔵

明治24年(1891)、54歳で清国に渡航した鳴鶴は、江南の古蹟等を巡遊して文人達と交わった。本書は、鳴鶴が南京の金陵での宴に招かれて詠んだ詩を、3年後の彦根の帰省時、地元の名士のために揮毫したもの。光沢がある滑りの良い^{こうほん}紙本に書かれる。禹域とは、中国のこと(古代中国の伝説上の聖王、禹が洪水をおさめて統治した地域の意から)。

燈光酒影照氷絃 春在風流太守船

桃葉渡頭留韻事 江南花伴海東仙

氷絃…氷絃(弦)玉柱(=箏の美称)のことか

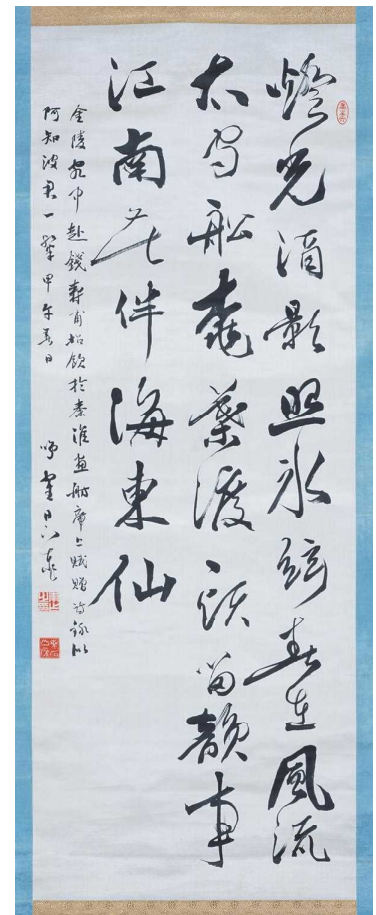
太守…中国・清朝の知府(府知事)

桃葉…中国・江蘇省首都市内の渡し場の名、晋の書家・王献之が愛称・

桃葉を送った地

渡頭…船わたし、渡し場、渡津

韻事…風流の遊び 詩歌書画などの遊び



17 瀧画賛幅 日下部鳴鶴筆 1幅

紙本墨画

縦136.2cm 横37.5cm

明治~大正時代

当館蔵(井戸庄平家伝来資料)

鳴鶴筆の画賛作品の画題は、蘭・竹・梅・菊の四君子など、簡略に画かれた花卉が多い中、本図は、珍しく奥行きをも感じさせる比較的手の込んだ1幅。

